

「學無限斎碩叟筆」

法交タイムス



今月の表紙 だいとくと ほうしゆんいん らくまきでい <大徳寺 芳春院 落葉亭> あげたいめざり 二畳二台日 上台目切

写真 小笠原敏孝

点前畳と貴人畳にそれぞれ一畳の畳、客畳と炉畳に台日畳を用いている。
化粧屋根裏、曲木の中柱、躰口、貴人口などを備える。

11

2016 / 第 508 号



リズムの意識

17 17

皆さまは、ご自分の「リズム」というものをご承知でしょうか。生活の中のリズム、点前のリズムなど。人によってセカセカしている、のんびりしている…ということではなく、アクセント、または「呼吸」と捉えてもいい。私の場合は若い頃から音楽では専らジャズ、時折クラシックが好きなので、自分の人生において何か調子の良いとき、歯を磨いていても食事をしていても道を歩いていても自然と4ビート^{フォー}かなと思っています。

もちろん鼻歌交じりで点前をするわけではありません。例えば地区大会などでお茶湯をする際、まだ幕が上がる前に仮茶道口に座って呼吸を整えている時、先日、釧路で行われた北海道地区大会ではめずらしくマーラーの交響曲のメロディがすうっと湧いてきました。移動の飛行機で海上を飛び、湿原へ入ってきたときの感覚が思い起こさせたのでしょうか。点前に臨む前、少し高揚した気持ち^{モチ}をマーラーの曲が抑えてくれたり、疲れ気味で元気がない時はワーグナーが心の中で鳴って

みたり。折々につけて自分の中で自身を動かしていくリズムというものは、相撲でいわれる立合いの呼吸のようなものでしょうか。

人それぞれであったとしても、そうしたりリズムが自分の中にあるとまずは気付いていただきました。それがまた点前の流れにおける強弱にもつながっていきます。亭主は客のリズムに気付き、客も亭主のリズムを感じる。そうしてこそ御茶をいただく所作にも、また問答の間合いにも生きてくるようになります。自分のリズムに気付き、周囲の息づかいに合わせ、一座建立を目指す。稽古場での亭主ぶりや客ぶりはもちろん、見取り稽古として見学をしている時であっても、意識して臨んでいただきたいと存じます。

- 一 盃からピースフルネスを
- 一 盃で感謝・合掌・仕え合い

平成27年度・28年度 家元指導方針

- 一、茶の湯に出会う、日本に出会う
日本を知らない日本人の為の架け橋となろう
- 一、良い先生の育成とそれに伴う良い社中づくり
思いやりある茶人になることを目指そう
- 一、誇りと情熱
「教授者」の一人一人が地域社会における茶の湯をより高めるべく、自己の修練に励もう
- 一、同門一体感の高揚
茶の湯を学ぶ人々の一体感を高揚し、社中の帰属意識の啓発につなげよう
- 一、「集いの場」としての淡交会をより豊かに
支部・青年部・学校茶道、そしてお数寄者を含めた組織の連携と円滑な運営に心掛けよう



話し合いの大切さ

千
ま
ま

深まりゆく晩秋の気配が一層感じられる好季節となりました。十一月七日は立冬で冬支度の時期を迎えます。茶家にとって十一月は「炉開き」と「口切茶事」が重なり、茶人の正月といわれる由縁です。宗家では少し早めに十月の末日には炉開きを行い、十九日の宗旦忌には、宇治の上林茶舗が、当庵伝来の宗旦居士所用の茶壺に新茶を詰めて、お供えにまいります。御祖堂で壺の引き渡しを受け、利休居士はじめ歴代祖宗方へご奉告を致します。十一月末には家元とともに「内口切」を致し、御祖堂の利休居士はじめ歴代祖宗方、そして仏間の靈位に捧げます。このような行事には長い歴史がありますが、毎年滞りなくおこなわれ、それを積み重ねていくことが我が国の伝統となり、文化として継承されていくのです。大事にしたいものです。

さて、インフォメーションとインテリジェンスの両方にわたる組織があります。例えば米国はFBIとかCIAとか軍隊とか警察の連携が体系づけられています。最近では中国もこうした連携によって対外政策が盛んに行われているようですが、日本、韓国、米国にとって、独りよがりの覇権は迷惑なこと

です。ところで、九月の末、韓国の釜山で「東アジア茶文化シンポジウム」と「パネルディスカッション—東アジアの文化と平和—」を開催してまいりました。日本と中国、韓国の間で平和を祈り、三か国に共通する茶の文化の在り方を探ろうというもので、三か国を巡回しながら今回で第十一回目を迎えることができました。恒例の献茶式では、三か国の国旗の前に平和への祈りを込めた一盃を捧げさせていただきました。三か国の人々がお茶を点でて、お互いに「どうぞ」と勧め合う気持ちでお茶を喫してもらえれば、平和がもっと現実味を帯びたものになってくるのです。我々はもっと話し合ってみるべきなのです。人間としての人倫道徳の真のあり方を善意によって動かさねばなりません。そう望んでいるのは私だけではないでしょう。

茶人にとってはとりわけ大切なこの月、一盃を念じて修道の糧としてください。
同門の皆さんのご精進とご多幸を祈念します。

合掌

爽秋の空のもと

釧路で開催

—第54回北海道地区大会—



お茶湯の儀

九月十日・十一日、北海道釧路市において行われ、坐忘齋家元夫妻はじめ宗家の方々が出席。北海道知事の高橋はるみ氏(代理・山谷吉宏副知事)、釧路市長の蝦名大也氏、衆議院議員の伊東良孝氏(釧路支部顧問)、中川郁子氏(帯広支部副支部長)、釧路市教育委員会教育長の林義則氏をはじめ多数の来賓、北海道地区内外より約千名の同門社中がございました。

十日、午後三時より釧路プリンスホテルにて「青年部のつどい」が催され、ブロック内の各青年部から百十三名が参加。家元は挨拶で「点前手続きは門標のようなもので、見るだけではわかることが少ない。点前の意味を時代背景とともに考え稽古を重ねることで、その奥にあるものが見えてきます」と語られました。午後四時からの「進教授・茶名拝受者ならびに新入会員のつどい」では進教授・茶名拝受者を代表して釧路市議会議員の続木宗博氏(釧路支部顧問)が謝辞を述べ、また、同時刻には「正副支部長・幹事長会議」も行われました。その後、午後五時半から釧路市観光国際交流センターにて開催された懇親会は、中川議員の発声で乾杯。参加者は宗家を囲んで和やかに懇親を深め、中島太郎 釧路支部副支部長の挨拶で締めくくられました。

大会式典は翌十一日、釧路市民文化会館を会場に午前九時半から始まり、第一部では家元が「お茶湯の儀」を厳修。大会の開催を利休大居士、歴代宗匠に奉告、ご遺徳を偲ばれると



1
2
3
4



青年部のつどい

ともに、物故会員の靈位に対して一盃が捧げられました。第二部では吉野地区長と清水支部長による主催者代表挨拶、続いて大会を記念して釧路市の文化振興基金へ金一封他の贈呈があり、釧路市からは感謝状が贈られ、その後家元の挨拶、来賓祝辞がありました。第三部の表彰では家元夫人の挨拶の後、家元から功労者表彰として各賞を授与(受賞者は7ページに掲載)。続く特別講演で家元は、茶の湯における炭と火の扱いの大切さを説かれました。

大会期間中には記念茶会として、六園荘に濃茶席(釧路支部担当)、ANAクラウンプラザホテル釧路に薄茶席(釧路支部担当)とふれあい席(学校茶道・青年部担当)が設けられ、参加者は各席の趣向を楽しみました。

清水支部長挨拶

吉野地区長挨拶

第11回東アジア茶文化シンポジウム並びに パネルディスカッション、今年は韓国・釜山で開催

九月二十八日・二十九日、韓国釜山市において開催。来賓、日韓中はじめアジア各地の淡交会及び海外協会会員、裏千家インターナショナルアソシエーションの会員、釜山外国語大学の学生など延べ三百四十名が参加しました。
 鵬雲斎大宗匠の発言によるこの行事は、茶文化研究の学術的交流と東アジア地域の友好関係の更なる充実を図ることを目的に二〇〇四年に始まり、今年は第十一回を数えます。



東アジア茶文化シンポジウム



パネルディスカッション

◆日韓中平和祈念献茶式
 初日午前九時、釜山外国語大学にて執り行われました。潘基文国際連合事務総長からの平和のメッセージが読み上げられた後、厳かな雰囲気の中、大宗匠が謹点した一盃を三か国の国旗に捧げました。

◆東アジア茶文化シンポジウム

献茶式後、同大学において開会。大宗匠による主催者としての歓迎挨拶、続いて本事業の共催団体である釜山外国語大学を代表して鄭海麟大学校長から挨拶、来賓の長嶺安政駐大韓民国日本国特命全権大使、閻鳳蘭中華人民共和国駐釜山総領事、金炳圻釜山広域市文化観光局長、白宗憲釜山市議会議長から祝辞がありました。シンポジウムは「一つの流れ 和の心」をテーマに進行。大宗匠による基調講演、第一線で活躍する研究者の研究発表・指定討論が行われました。（※内容は7ページ参照）

◆大宗匠主催晩餐会

夕刻からは、パラダイスホテル釜山にて大宗匠主催晩餐会が盛大に行われました。王秀雲中日友好協会副会長からの祝辞



日韓中平和祈念献茶式



大宗匠を囲んで(晩餐会)



総長から大宗匠へ名誉博士の学位授与



呈茶席

◆千玄室大宗匠名誉博士号(経営学)授与式
 翌日午前九時、釜山外国語大学にて名誉博士号授与式が行われました。大宗匠におかれては初めて経営学の博士号を受けられました。

◆パネルディスカッション「東アジアの文化と平和」
 博士号授与式の後、同大学にて開会。主催者挨拶、森本康敬 在釜山日本国総領事による来賓祝辞がありました。その後に基調講演、各研究者による意見発表、ディスカッションが行われ、相互理解・交流促進について政治・社会・歴史など様々な観点から議論が深められました。（※内容は7ページ参照）
 閉会挨拶では大宗匠が「北朝鮮を含め皆が一体となり力を合わせることで、恒久平和の実現には望まれます」と訴え、参加者は活動継続の大切さを再確認しました。

◆呈茶

両日共に会場には、淡交会釜山協会による心尽くしの呈茶席が設けられ、裏千家インターナショナルアソシエーションの会員が協力しました。

第11回東アジア茶文化シンポジウム

- 主催 … 一般社団法人茶道裏千家淡交会、釜山外国語大学校
 後援 … 大韓民国外交部、在大韓民国日本国大使館、中華人民共和国駐釜山総領事館、釜山広域市、開根秀治氏(淡交会副理事長)
- 〔司会〕 張建立氏(中国社会科学院日本研究所文化研究室長兼教授)
- ◆基調講演：千玄室大宗匠
- ◆研究発表
- 研究発表Ⅰ 「日本文化の(和)の流れ」 盧近淑氏(國光大学校教授)
 - 研究発表Ⅱ 櫻井繁樹氏(香大学大学院総合生活学専攻教授)
 - 研究発表Ⅲ 「茶道と和と道教」―万物照応― 関根秀治氏(立安女学院大学伝統文化研究センター所長兼教授)
 - 研究発表Ⅳ 鄭映憲氏(東国大学校兼任教授)
 - 研究発表Ⅴ 「和」理念の形成と流れについて 陳秀武氏(東北師範大学日本研究所所長兼教授)
 - 研究発表Ⅵ 朴銓烈氏(韓国、中央大学校名譽教授)
 - 研究発表Ⅶ 「韓中口茶文化の共通の志向」 徐銀美氏(釜山大学校中国研究所専任研究員)
 - 研究発表Ⅷ 張建立氏
- ◆総評…………… 朴銓烈氏
- ◆第11回パネルディスカッション―東アジアの文化と平和―
- 主催 … 一般社団法人茶道裏千家淡交会、釜山外国語大学校、中国日本友好協会、公益財団法人日本国際連合協会、大韓民国外交部、在大韓民国日本国大使館、中華人民共和国駐釜山総領事館、釜山広域市、中国国際連合協会、韓国国際連合協会
- 〔司会〕 張振興氏(中国日本友好協会友好交流部部長)
- ◆基調講演：「和の心」金容雲氏(漢陽大学校教授兼光復茶文化研究会韓国委員長)
- ◆意見発表
- 意見発表① 「孔孟儒家と李退溪の境遇を介して見た国際平和論」 趙南旭氏(釜山大学校名譽教授)
 - 意見発表② 「広島・長崎の悲劇と韓国分断の悲劇―平和への視座―」 小此木政夫氏(慶應義塾大学名譽教授)
 - 意見発表③ 「北東アジアにおける持続可能な安全保障のための新方向」 劉江永氏(浦里大学国際関係院教授)
 - 意見発表④ 「韓日間の平和主義者たち―韓国ドラマで蘇った千利休―」 朴明欽氏(韓日海防圏未来研究所長)
- ◆パネルディスカッション
- 〔コーディネーター〕 加藤千洋氏(同志社大学グローバルスタディーズ教授、釜山外大)
 趙南旭氏、小此木政夫氏、劉江永氏、朴明欽氏
- ◆総評…………… 周璋生氏(立命館大学教授)

第三十七回秋期研修会

十月四日から六日までの三日間、宗家において開催されました。

初日午前九時からの開講式では、千敬史様が挨拶。「宗家で学ぶことが出来る貴重な機会を存分に活かし、受けた教えを全て吸収する気概で臨んでいただきたい」と受講生を激励されました。受講者を代表して高柳宗幸氏(富山支部)が誓いのことばを述べ、早速実技講習が始まりました。

最終日の閉講式では、坐忘齋家元より受講者代表の中島宗虹氏(東京第五支部)に修了証を、酒井宗敦氏(魚津支部)に学校茶道指導者認定証を授与。続いて、家元より「茶の湯は多くの人が携わって成り立つもの。それぞれの稽古場に戻った後も、周囲と心を合わせて場を進めていくことを大切にしてください」と挨拶がありました。最後に、受講者を代表して清水宗裕氏(札幌第一支部)が謝辞を述べ、研修が修了しました。



地区大会での功労者表彰

- 第五十四回北海道地区大会(九月十日・十一日)
- 《淡交フェロー》
- ◎一回目
 - 〔釧路支部〕 清水幸彦氏(支部長)、上林宗律氏(参事)、國島宗美氏(幹事長)、幾島宗勝氏、高田宗里氏(以上副幹事長)
 - 〔札幌第三支部〕 岩佐宗成氏(監事)
 - ◎二回目
 - 〔釧路支部〕 中島太郎氏、菅原顯史氏(以上副支部長)、宮嶋宗好氏(副幹事長)、江渡宗悦氏(監事)、西堀宗信氏、川島宗法氏(以上常任幹事)
 - 〔空知支部〕 土井宗由氏(参事)
 - 〔北見支部〕 櫻井宗康氏(参事)、中川宗代氏(幹事長)、平山宗英氏、古川宗尊氏(以上副幹事長)
 - 〔網走支部〕 豊島宗智氏(参事)、梅本宗忠氏(副幹事長)
 - 〔根室支部〕 福井宗邦氏(参事)、得能宗幸氏(幹事長)、川上宗智氏、小林宗礼氏、多田宗津氏(以上副幹事長)
 - 〔高岡宗国氏(常任幹事)〕
- 《淡交会育成功労者表彰》 山田宗代氏(札幌第四支部)

《淡交会青年部育成功労者表彰》 林宗享氏(札幌第二支部)

晴れの受賞者

JICA理事長表彰 JICA国際協力感謝賞 櫻畑直尚氏(参事)和歌山支部支部長

各地の今日会

東京今日会 開催日 十月十一日
 会長 本庄八郎氏(關伊藤園代表取締役会長)

宮津支部創立七十周年・青年部創立五十周年記念大会

宮津支部(久保幸司支部長 宮津青年部 茶谷環部長)

九月四日、京都府宮津市の天橋立宮津ロイヤルホテルにて開催され、坐忘齋家元、伊住公二朗様、禮次朗様が出席。京都府丹後広域振興局長の山内一氏、宮津市長の井上正嗣氏、与謝野町長の山添藤真氏や、武田隆男氏(近畿第一地区長)、松久保秀胤氏(近畿第一地区名誉地区長)、小西剛氏(両丹支部長)、西村肇氏(但馬支部長)はじめ近隣支部からも多数出席があり約五百名が集いました。

正午には昼食会が催され、家元はお祝いの言葉を述べられました。午後二時からの記念式典では主催者挨拶、来賓祝辞、功労者への感謝状贈呈がありました。続いて家元による記念講演が行われ、講演後、今井一雄副支部長から謝辞がありました。また、式典に先立って同ホテルには濃茶席(支部担当)、立礼席(青年部・学校茶道担当)が設けられ、参加者に心尽くしの一皿が呈されました。



高岡青年部創立五十周年記念大会

高岡支部(橋慶一郎名誉支部長 在田吉保支部長 高岡青年部 橋本美紀部長)

富山県高岡市において千敬史様、万紀子様を迎えて九月四日に開催され、高岡市長の高橋正樹氏、高岡市教育長の水見哲正氏や、荒井公夫氏(北陸地区名誉地区長)はじめ北陸信越ブロック役員、高岡支部・青年部の役員・会員、青年部卒業生など約四百名が五十周年を祝って集いました。

ホテルニューオータニ高岡にて午後四時から記念式典が催され、主催者挨拶、小泉昇 北陸信越ブロック長ら来賓の祝辞、歴代部長への感謝状贈呈がありました。続いて敬史様、万紀子様と高岡青年部 篠井哲治君による鼎談が行われました。午後六時半からの記念祝賀会では多田慎一 副支部長による乾杯の発声が行われ、参加者は宗家を囲んで歓談しました。式典前には有磯正八幡宮に濃茶席、在田支部長宅に香煎席、高岡御車山会館に薄茶席の計三席が青年部により設けられました。

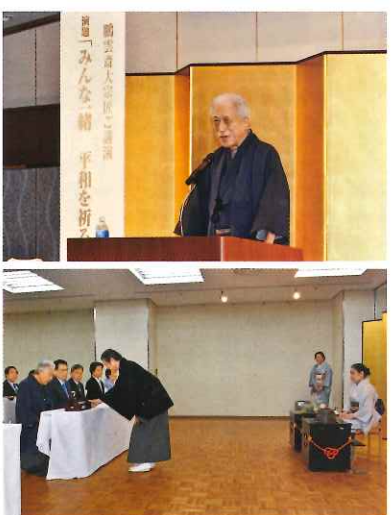


東播支部並びに青年部創立五十周年記念行事

東播支部(神木董名誉支部長 伊藤勝之支部長 東播青年部(奥田真奈美部長))

九月十九日、鵬雲斎大宗匠出席のもと兵庫県加古川市の加古川プラザホテルにて開催され、加古川市長の岡田康裕氏(東播支部顧問)や樽谷清孝氏(近畿第三地区長)、衆議院議員の渡海紀三朗氏(東播支部顧問)、松本剛明氏(近畿第三地区副地区長・播磨支部支部長)、山口壮氏(西播磨支部副支部長)はじめ支部内外から約六百名が参席しました。

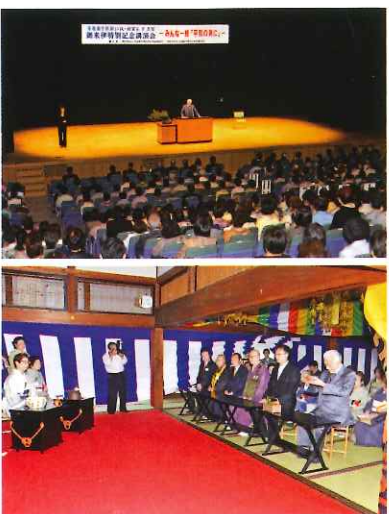
午前十一時から記念講演会として、伊藤支部長の挨拶、芝田智敏 副支部長による紹介に続いて登壇された大宗匠が、「みんな一緒 平和を祈ろう」と題した講演をされました。講演を受け、西中亮二 副支部長から謝辞がありました。続く懇親会では西田光衛 副支部長の挨拶、来賓祝辞などがあり、朝比奈秀典 副支部長の挨拶で締めくくられました。また同ホテルには支部担当の呈茶席や、青年部主催のイベントコーナーが設けられました。



伊達支部 特別記念講演会

主催：北海道地区(吉野次郎地区長 伊達支部(奥村孝善支部長))

九月十七日、北海道伊達市だて歴史の杜カルチャーセンターにて、鵬雲斎大宗匠が「みんな一緒 平和の為に」と題した講演をされました。伊達市長の菊谷秀吉氏(伊達支部副支部長)、伊達市教育委員 会教育長の影山吉則氏、亘理伊達家第二十代当主の伊達元成氏、淡交会会員のみならず一般市民を含め約八百名が参加。講演会前には伊達支部による呈茶席が設けられ、道内から集まった参加者に一皿が呈されました。



各地での講演・講義

日本青年会議所(JC)茶業部会記念講演会

八月二十六日、同会創立五十周年を記念する式典がANAクラウンプラザホテル京都にて行われ、坐忘齋家元が「茶は長寿友」と題して講演。式典前には京都JC茶道同好会「青松会」が呈茶席を設けました。



立命館大学にて講義

八月二十九日から九月二日、同大学夏期集中科目が開講。三十日には衣笠キャンパスにて、客員教授を務める鵬雲斎大宗匠が「茶の文化」と題した特別公開講義をされました。開講期間には今日庵業林による実技講習なども行われました。



京都工芸繊維大学大学院生へ講義

同大学院の専攻共通科目「京の伝統工芸―知美技」が九月五日から九日まで開講し、初日には同大学顧問の大宗匠が裏千家学園にて講義。また、期間中には茶道会館にて今日庵業林による実技講習が行われました。



タカミヤホテルグループ創業三百年記念行事

九月二十日、山形市内にて家元が同行事の中で「もてなす心、もてなされる心」と題した記念講演をされました。家元と日本JCで共に活動した十六代当主・岡崎彌平治 CEO(淡交会山形支部副支部長)からの依頼で開催。講演後にはタカミヤヴィレッジホテル樹林にて山形支部による呈茶席が設けられ、その後は祝賀会も催されました。



2016年裏千家インターナショナルアソシエーション(UIA)役員会

九月三日、裏千家センターにて2016年度―2017年度新たに就任した総括幹事・顧問・運営幹事・監事が出席して会議が行われ、その後、幹事が加わりUIA役員会が開催されました。役員会では新役員へ委嘱状の交付があり、引き続き議案審議、意見交換がなされました。



- ①議案審議
- ②第1号議案 2015年度事業報告並びに2015年度決算報告
- ③第2号議案 2016年度事業計画案並びに収支予算案
- ④「意見交換」
- ⑤規約一部変更案について
- ⑥2016年度エリア活動並びに今後のUIA活動について



学校法人 裏千家学園

裏千家学園茶道専門学校

裏千家学園

検索



9月17日(土)、茶道科生が席主をつとめ、恒例の観月茶会を催しました。1年コース・研究科・外国人研修コースが客となり、また、京都市内の大学・高等学校の茶道部員など一般の方々およそ60名をご案内しました。

厳しい暑さの残るなか、茶席は爽やかな秋の訪れを感じさせる取り合わせ。本席の床は耕月老師の筆『開門多落葉』。虫籠花入に燕尾仙翁とエノコログサ。点前座には淡々斎好みの大内棚が据えられ、秋草蒔絵中棗と竹絵の水指。茶杓は卒業生の作。菓子は3年生が中心となり試行錯誤を重ね、丹精こめて手作りの月見団子です。

お客様は三味線のしらべに促され別室へ移動。秋刀魚のおろし和えや里芋の衣かつぎなど秋の味覚が盛りだくさん

の点心に舌鼓。煮物椀には雲間の月に見立てた鱧真薯が浮かんでいました。ささやかながら、心づくしのもてなしに客人はしばし蒸し暑さを忘れ、秋の夜長の風情に浸りました。高校茶道部の生徒さんから「道具の取り合わせや客に対する心遣いなど多くのことを学び、励みになりました。自分たちも素敵な茶会ができるよう、これからもいっそう精進していきます」との感想が寄せられました。



平成29年度 学生募集要項

	茶 道 科		1年コース	研究科 春期3か月コース
	公募推薦入試	一般社会人入試		
試験日	平成28年12月3日(土)	【前期日程】平成29年2月4日(土) 【後期日程】平成29年3月4日(土)		
出願期間	平成28年11月1日~22日	【前期日程】平成29年1月6日~25日 【後期日程】平成29年2月6日~22日		
募集人数	40名	10名	10名	
出願資格	高等学校卒業以上または卒業見込みの方 許状資格の有無は問いません		「中級(和巾点)」以上の許状 を有する方 *申請中可	「引次」以上の許状を 有する方 *申請中可
	*年齢・性別・国籍を問いません *日本語能力試験2級合格以上の日本語能力が求められます			
選考方法	書類審査・面接・小論文(テーマは当日提示)			
学生寮	初年度は入寮を原則とします		通学を原則としますが、空室があれば入寮可	

お問い合わせ・資料請求

〒602-0061 京都市上京区小川通寺之内上る本法寺前町651番地
電話:(075)415-0045 FAX:(075)415-0053 E-mail:gakuen@urasenke.or.jp

支部通信



風薫る 好季節に 支部懇親茶会

東京第四東支部
黒川俊一支部長



高田馬場にある茶道会館にて5月1日、濃茶席と薄茶席、立礼席、香煎席、点心席を設けて催し355名が参加。支部役員と青年部会員が協力して進め、盛会のうちに終えることができました。また4月に発生した熊本地震の被災地へと募金活動を行い、義援金を裏千家災害救援寄金へ寄託しました。



世界各国の 方へ茶道紹介 教室を開催

神戸支部連合会
辰馬章夫会長

当会ホームページを見た神戸の企業から要請を受け4月21日、生田神社 神泉亭にて海外からの訪問者を対象に「日本文化と茶道体験教室」を開催。初めに小早川宗紫 神戸第二支部幹事長が茶道の歴史や精神性について説明、続いて点前の解説と呈茶、点茶体験を行いました。9か国から集ったお客様は初来日の方も多く熱心に質問が寄せられ、日本文化に触れていただく貴重な機会となりました。



被災地復興へ 願いを込めて 陶芸教室

沖縄青年部
屋富祖宗貴部長

6月26日、読谷村で陶真窯を営む相馬正和氏(青年部卒業生)を講師に迎えて開催。坐忘齋家元から、熊本・大分の震災からの復興へ願いを込め九州ブロックへ旗「貫道」が贈られたことを受け、本行事も復興支援行事として行いました。作陶後には相馬先生の茶碗とナショナルコンファレンス2016inいわきで交換した茶杓を用いて呈茶をし、会員相互の交流が深まる有意義な一日となりました。



祭りの 賑わいの中 仙台七夕茶会

宮城支部
鎌田文恵支部長

8月6・7日、仙台市ガス局のガスサロンにて開催した本茶会は、今年で10年目を迎えました。「仙台七夕まつり」の折、茶の湯や仙台の魅力を広く皆様に知っていただくことを目的に支部・青年部・学校茶道が合同で行っており、今回は延べ238名が参加。点前とお運びをする生徒たちの清々しい所作、屋外に設けた点茶の体験コーナーが好評を博し、両日で945名の喫客を迎えました。



夏休み企画 三溪園にて 茶道体験

横浜支部
岡田伸浩支部長

8月15日、横浜市にある庭園・三溪園が主催する「三溪園で楽しむ夏休み」企画の一つとして、毎年恒例となった「お茶会体験 お抹茶を点ててみよう」を同園鶴翔閣にて開催。海外の方や、三世代の家族連れなど幅広い層を含む163名が来席されました。まず盆略点前で一服差し上げ、お茶と菓子のいただき方を説明、点茶体験では初めての茶筌振りに興味を持って取り組んでいただけました。



「青葉の風」を テーマに 蒼翠茶会

福山支部
小川喜代光支部長

5月8日に福山城公園内の福寿会館にて開催し、172名が参加。「お客様に喜んでいただくためにはどのような工夫がよいか」と諸先生方からの助言を参考に担当者同士で考え、点心席では折敷・煮物椀・小吸物・八寸と二献を供し、動座して続き薄茶を行うという初の試みで迎えました。多くの方からのサポートをいただき、「良い席だった」との感想も聞こえる充実した茶会になりました。

七五三と千歳飴

中山圭子 (菓子資料室虎屋文庫専門職)



七五三祝ひ乃圖 三代歌川豊国 国立国会図書館

十一月の行事といえば、思い浮かぶのは七五三でしょう。三歳の男女児、五歳の男児、七歳の女児の成長を祝って神社に参詣します。

かつては子どもの成長の節目に、髪置き(髪を伸ばし始める)、袴着(初めて袴をはく)、帯解き(付けひもを取り、帯をしめる)などの行事がありました。地方や身分によって祝う年齢や日にちが異なりましたが、江戸時代後期には七五三として、十一月十五日に行なうようになります。今回の錦絵もこの日、神社に詣でる親子を描いており、右は袴着、真ん中は帯解き、左は髪置きを表しています。晴れ着姿でちよつとおすまし顔の子どもたちを見てると、こちらも笑顔になってしまいます。

さて、七五三につきものなのが千歳飴。

千歳飴の始まりと伝えられるのは、元禄、宝永(二六八八〜一七二二)頃、浅草で七兵衛という人物が浅草寺境内で商ったという飴。柳亭種彦の『還魂紙料』(二八二六)によると、当初は「千年飴」「寿命糖」と呼ばれていたそうです。この名称と長い形状は、子どもの長命を願う七五三にふさわしく、次第に行事菓子として定着していったのではないのでしょうか。核家族化が進み、近年では飴のサイズも長いものに限らなくなったよう。変化はありますが、千歳飴でお祝いする風習はいつまでも大事にしたいものです。



飛来家の仕事



鶴羽 一双



白竹茶筌

飛来家の仕事は、一閑張だけではありません。歴代の項でも触れましたが、五代一閑の頃より茶筌・羽箒・円座・露地笠・草履・簾などの

十職の所懐

一閑張細工師
飛来 一閑

〈最終回〉

数寄屋道具も製作しておりますことは、ご存じない方も多いと思います。

十四代よりの口伝では、それまで粟田玄竹家が千家様出入の数寄屋道具取扱いをいたしておりましたが、何らかの理由により当家が申しつかったと聞き及んでいます。

数寄屋道具以外にも、竹を編んで作る籠花入や籐組みの釜敷なども飛来家の仕事です。

最後に、お尋ねの多いお手入れ方法についてですが、一閑張は木と紙でできておりますので、一般の漆器のように水に強くはありません。お使いになられた後は、固く絞った方

ーゼなどで軽く拭いていただき、そのあと必ず乾拭きをして水分が残らないようにしていただけたらと思います。お道具は年に一度は、風を通す意味でお使いいただくのが一番だと思いますが、お使いにならない時は、防虫香を入れておしまいいただくのが良いかと思えます。

祖父(十四代)がよく、「うちの作品は食事の最後のお茶漬のようなものだ」と申しておりました。一閑張には派手さはなく、どちらかといえば地味なもので



© Akira Takemae

飛来家の玄関。飛び石伝いに前庭を進む。

す。茶室の中で自己主張せず、他のお道具の邪魔をしない：今思えば、祖父の言っていたのはこういう事だったのかもしれないと感じています。

数寄屋道具をはじめ多岐にわたる作品の中で、今では材料の調達が難しいものもあります。が、今後も一閑張細工師として、細工に当たる部分の仕事は自分なりに表現していきたいらと思っております。

拙い文章に一年間お付き合いいただきまして、有難うございました。(完)

平成二十九年初釜式について

ご承知のように、裏千家では三年前より今日庵全域の茶室の修復を行っております。工事の進捗状況によつて初釜式のご案内人数に変動が出ている現状ですが、今しばらく続きますことをご了承承ください。

一、特別師範会員に三年以上在籍しておられる方
二、五年以内に一定の許状資格の取次がある方
などを勘案して案内をさせていただき予定ですので、ここにお知らせいたします。

(今日庵)

第61回冬期講習会 受講者募集

- [期間] 平成29年2月24日(金)～28日(火)
 - [参加資格] 専任講師(茶名)以上(淡交会終身師範会員以上)
※最終日の閉講式終了時(午後4時)まで参加可能な方
 - [受講料] 97,200円(受講料90,000円・消費税7,200円)
 - [会場] 裏千家の各教場
 - [内容] 宗家をはじめ業師講師の指導による道・学・実
基本点前より行之行台子
講話及び坐禅
 - [申込締切] 平成28年12月10日(土)
※書類審査にて受講の可否を通知します
 - [特典] 講習会修了証・学校茶道教授者適格証を授与します
- *専用の申込書は所属支部へご請求ください。

申し込み・問い合わせ先
一般財団法人 今日庵「裏千家冬期講習会」係
〒602-0061 京都市上京区小川通寺之内上る本法寺前町613番地
TEL:(075) 431-3111

「裏千家ゼミナール」受講者募集

茶道特別講座「裏千家ゼミナール」は、「道・学・実」三位一体の茶道修習の場として、また茶道教授者の資質向上を目的に全国11か所で開講しています。このたび下記のゼミナールの受講者を募集します。専用の申込書は当該地区内の支部事務所、または今日庵「裏千家ゼミナール」係へご請求ください。

- ◆第13期 北海道ゼミナール本科(定員80名)
於・裏千家北海道茶道会館 札幌市中央区北二条西14丁目1-2
- ◆第16期 北海道ゼミナール別科(定員80名)
於・裏千家北海道茶道会館 札幌市中央区北二条西14丁目1-2
- ◆第8期 九州ゼミナール(定員75名)
於・裏千家福岡茶道会館 福岡市東区箱崎1丁目43-5

[期間] 平成29年3月～平成30年11月(1期2年間 10講座)
[申込締切] 平成28年12月16日(金) ※書類選考
[受講資格] 淡交会終身正会員以上
※北海道ゼミナール本科は別科修了者に限ります。
※北海道ゼミナール別科は淡交会正会員以上となります。

問い合わせ先
一般財団法人 今日庵「裏千家ゼミナール」係
〒602-0061 京都市上京区小川通寺之内上る本法寺前町613番地
TEL:(075) 431-3111

■各種申し込みの際に記載された個人情報、受付業務・参加歴の登録以外には使用いたしません。

義援金(災害救援基金口)協力をお願い

裏千家では、平成28年熊本地震、東日本大震災等、自然災害被災者への支援の給付に充てるため「災害救援基金口」の口座を開設しています。引き続き、皆様方のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

義援金振込先

三菱東京UFJ銀行 京都支店 普通預金
口座番号: 5326474
口座名: 一般社団法人茶道裏千家淡交会災害救援基金口
シヤチヤドウウラセンケタンコウカイサイギキョウエ
ンキキングヅ

義援金の使途について

被災されました会員の方々へ給付を行うとともに、被災地の復興資金として役立てさせていただきます。

給付総数 二六五二件 総計 一、六一、八一〇、〇〇〇円
(平成二十八年九月末日現在)

義援金 寄金者(ご芳名は敬称略、順不同)

栢植史雄、新居浜青年部、久保田宗光、網走学校茶道連絡協議会、米子青年部、林宗由、(有)行松旭松堂、北九州支部、須賀田宗代社中、サトウトモミ、元裏千家インターナショナル神戸会、新潟支部、大阪東支部、大阪東青年部チャリティ茶会、石川南学校茶道連絡協議会、フジシロカイ、関東第三ブロックNC報告会有志、九州ブロック研修会、天野宗昭、群馬県華の会、横須賀夕なぎの会、博多NCゆかりの茶会、石見支部、相模支部、高見屋 岡崎彌平治、愛知第一支部、福井支部、東野恵子、栢植史雄(以上、平成二十八年九月一日から末日まで)

累計 二八二〇件 一三三、五九三、四三七円

芳志箱運動寄金者

ご協力いただき有難うございます。

- 【平成二十八年四月】
酒井宗紫(石川)、香川支部
- 【平成二十八年五月】
齋藤宗秀(庄内)、故山尾宗綾(尾道)、
中重宗妙社中(鹿児島)、栗山宗由(京都北)、
第112期東京ゼミナール別科金曜クラス
【平成二十八年六月】
鵬雲斎大宗匠、
酒井宗紫社中(石川)、

- 南 宗香、村田宗百、前田宗光(以上石川)、
和寿会(小川宗紀 大阪北)、
石川社中、一色宗英、岡本宗喜、越智宗綾、
越智宗久、河瀬宗栄、近藤宗香、近藤宗俊、
近藤宗瑞、佐藤宗邦、塩崎宗綱、杉野宗静、
直野宗克、長田宗喜、野口宗訓、藤原宗美、
星加宗栄、森 宗輝、安永宗重、山内宗喜、
山本宗薫(以上西条)、
深谷宗香、中富宗廣、坂口宗幸、佐藤宗良、
多田宗俊、安永宗圭、藤井宗通、伊野宗聖、
宮本宗寿、田島宗靖、松岡宗友、久保宗清、
漢 宗實、西川宗邦、田中宗美、村瀬宗敏、
谷口宗亀、谷口宗雅、佐伯宗枝、永松宗弘、
管 宗久、安永宗啓、穂坂宗貞、小出宗由、
久保宗修、原田宗縁、江藤宗富、副島宗嬉、
合屋宗明、朝部宗美、北村宗美、早瀬宗弘、
日野宗玲、細川宗律、大村宗辰、岸本宗知、
花村宗光、室井宗昭、熊抱宗恵、木村宗宜
(以上筑豊)

合計 三三九、九四九円
累計 三二〇、六六八、三九一元

【会員専用ページについて】

裏千家ホームページ内には「会員の皆様へ」として、淡交会会員専用のページを設けています。『動画で見る茶道裏千家の記録』の閲覧、氏名・住所変更届の送信、全国ホテル・旅館の宿泊料金優待制度の案内など様々なコンテンツがあります。ぜひアクセスしてご利用ください。

アクセスには、ユーザー名・パスワードが必要です。

[ユーザー名] tankotimes
[パスワード] wakei28

※パスワードは毎年変更します。



「式亭」
ギフトのご案内

「ふのやき」や「氷菓糖」をはじめ京都を中心に全国より厳選した旬の美味しさを、ご用意しました。冬は暖かに。今年も式亭から皆様へ心を込めてお届けいたします。

フリーダイヤル TEL 0120-351-088 (月～金10時～16時) FAX 0120-889-475 (24時間受付)

株式会社 ミリエーム 〒602-0006 京都市上京区小川通寺之内上る2丁目御昌院町648-1

カタログをご請求ください

TEL 0120-351-088 (月～金10時～16時) FAX 0120-889-475 (24時間受付)

式亭 検索

淡交カルチャー教室 ※会費はすべて消費税込です

<p>東京教室 夜吐の茶事 12月17日(土)・18日(日) 講師 秋山宗和 会費 48,000円 定員 10名 会場 大橋茶寮</p> <p>灰形冬季特別講習会 平成29年1月24日(火)・25日(水) 講師 小澤宗誠 会費 11,500円 定員 22名 会場 淡交社東京教室</p>	<p>京都教室 辻留の懐石料理講習会 12月3日(土) ※実習はありません 講師 辻留 会費 11,800円 定員 20名 会場 淡交社第2ビル</p> <p>南禅寺畔瓢亭での茶花特別教室 平成29年1月25日(水) 講師 高橋英一(瓢亭主人) 会費 26,000円 定員 28名 会場 南禅寺畔 瓢亭</p>
---	---

お問合せ先 淡交社 文化事業部 京都 ☎075-432-4090 東京 ☎03-5379-3227



胎釉 福寿儀茶碗
伊東桂楽作
18,000円(税込)
木箱(送料別)

[寸法]
最大径12.8cm 高さ8.1cm

淡交センター・カルム 京都店 075-432-5156 東京店 03-5269-2371 FAX 0120-310-278

12月の予定 <行事・支部研究会>

1	木	
2	金	
3	土	●淡交会青年部全国委員会(於 ANAクラウンプラザホテル京都) ●淡交会青年部第55回全国代表者会議 淡交会青年部第46回ブロック代表者会議 青年部部長予定者研修会~4(日) ・但馬・広島第二・佐賀
4	日	・横須賀・浜松・三河・両丹・広島第二・佐賀
5	月	
6	火	
7	水	
8	木	●又妙斎直叟宗室居士百回忌法要
9	金	・熱海・東広島
10	土	・東静岡・中越・広島第一・竹原・島根・今治・松山・徳島
11	日	・中越・堺・広島第一・島根・西条・伊予・徳島・沖縄
12	月	・埼玉県
13	火	●事始めの儀
14	水	
15	木	・京都東/京都西/京都南/京都北
16	金	
17	土	
18	日	
19	月	●宗家稽古納め
20	火	
21	水	
22	木	
23	金	
24	土	
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	●大祓い
30	金	
31	土	●除夜釜

※支部名は研究会開催支部、細字の支部名は前日より開催。
詳細は各支部にお問い合わせください。

秋季特別展

私の一碗
— 六十五碗 それぞれの想い —

開催中～12月11日(日)

じっくりと手に馴染んで愛着のある茶碗、代々受け継がれてきた大切な茶碗、自ら作陶したお気に入りの茶碗—等、自分にとってかけがえのない一碗を六十五数名の方々に出品いただき、その茶碗の魅力、茶碗との出会いや心に残るエピソード等、出品者からの紹介文とともに展覧いたします。



古瀬戸平茶碗
出品者：木下収(北村美術館)



色絵金彩寿字文茶碗
鈴花の色 堂本印象絵付
出品者：三輪晃久
(京都府立堂本印象美術館)

- [開館時間] 9時30分～16時30分(入館は16時まで)
- [休館日] 月曜日、11月1日(火)・2日(水)
- [入館料] 淡交会会員800円、一般1,000円、大学生600円、中高生350円、小学生以下ならびにメンバーシップ校の方は無料、20名以上団体割引、
※入館者には呈茶を行います(無料)。

茶道資料館 TEL: (075) 431-6474
京都市上京区堀川通寺之内上る寺之内堅町682番地
裏千家センター内

茶道資料館

茶道手帳

好評
発売中

平成29年 定価820円(本体759円)

お茶人のための「茶道手帳」が今年も登場! 年末年始の贈り物にも最適。
季節のことば、会記欄なども役立ちます。

送料210円 ※3部以上のご購入で送料サービス
判型170×90ミリ 本体160頁 アドレス帳(別冊)16頁



淡交のり

基本と着こなし 監修 市田ひろみ
茶席のきもの
炉の季節 11月から4月

茶事・茶会・稽古、さまざまな茶の湯のシーンにふさわしいきものTPO、

知っておきたいきもの基礎知識とともに紹介します。
●A4判 144頁(オールカラー) ●定価2,592円(本体2,400円)

お申し込み お問合せ先 **淡交社** 〒603-8588 京都市北区堀川通鞍馬口上ル TEL075(432)5151 (平日9:00～17:00)
〒162-0061 東京都新宿区市谷柳町39-1 TEL03(5269)7941